

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」の結果について（概要）

## 1 教科に関する調査の結果について

宇都宮市教育委員会

### <全体的な状況>

#### 【小学校】

○ 小4の国語、小4・小5・小6の算数で県や国の平均正答率を下回っている。それ以外の学年、教科においては、県や国の平均正答率を上回っている。

#### 【中学校】

○ 中3の数学で、国の平均正答率を下回っている。それ以外の学年、教科においては県や国の平均正答率を上回っている。

### <小学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況 (%)		
		宇都宮市	国または県 (*)	市 - 国または県 (*)
とちぎっ子学習状況調査 小4	国語	68.7	69.5	△0.8
	算数	74.0	75.1	△1.1
	理科	65.8	65.0	0.8
とちぎっ子学習状況調査 小5	国語	69.4	68.6	0.8
	算数	63.2	63.4	△0.2
	理科	65.2	64.3	0.9
全国学力・学習状況調査 小6	国語	67.2	65.6	1.6
	算数	62.9	63.2	△0.3
	理科	65.0	63.3	1.7

### <中学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況 (%)		
		宇都宮市	国または県 (*)	市 - 国または県 (*)
とちぎっ子学習状況調査 中2	国語	69.6	68.7	0.9
	社会	58.5	56.7	1.8
	数学	61.1	59.4	1.7
	理科	56.0	53.2	2.8
	英語	59.1	56.1	3.0
全国学力・学習状況調査 中3	国語	70.2	69.0	1.2
	数学	51.0	51.4	△0.4
	理科	50.9	49.3	1.6

(\*) 小6・中3においては、全国の平均正答率及び全国の平均正答率との差を示しています。

小4・小5・中2においては、県の平均正答率及び県の平均正答率との差を示しています。

＜小学校（小4・小5・小6） 領域や観点等別の状況＞

\* 「ポイント」を「P」と表記する。

国語	<p>○ 「読むこと」の領域の平均正答率が、小4・小5では県平均をそれぞれ0.7P、1.3P、小6では全国平均を1.3P上回り、良好な状況が見られる。中でも、人物像や物語の全体像を具体的に想像する設問において、小6では全国平均を2.5P上回っている。</p> <p>● 「書くこと」の領域において、小4・小5・小6とも、自分の主張が明確に伝わるように、段落ごとに必要な情報を書くこと、文章の構成を意識して書くことに課題が見られる。</p>
算数	<p>○ 「図形」の領域の平均正答率が、小5では県平均を0.1P、小6では全国平均を1.4P上回り、良好な状況が見られる。中でも、小6の示されたプログラムを正三角形を作図することができる正しいプログラムに書き直す設問の正答率は全国平均を4.7P上回り正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに良好な状況が見られる。</p> <p>● 「数と計算」の領域において、基本的な計算の技能の定着、分数の意味や表現の理解（単位分数、仮分数、帯分数など）に課題が見られる。</p> <p>● 「変化と関係」の領域において、伴って変わる2つの数量の関係を式に表現することや、日常生活場面における割合の事象の理解に課題が見られる。</p>
理科	<p>○ 「物質・エネルギー（A区分）」「生命・地球（B区分）」の各領域の平均正答率が、全学年で、全国及び県平均を0.5P以上上回り、良好な状況が見られる。中でも、液体の体積をはかり取る器具の名称を答える設問において、小6では全国平均を8.7P上回っている。</p>

＜中学校（中2・中3） 領域や観点等別の状況＞

国語	<p>○ 「読むこと」の領域の平均正答率が、中2では県平均を1.7P、中3では全国平均を0.4P上回り、良好な状況が見られる。中でも、人物の心情について描写を基に捉える設問において、中2では県平均を1.4P、中3では全国平均を0.7P上回っている。</p> <p>● 「書くこと」の領域において、中2では、自分の主張が明確に伝わるように、読み取った内容や自分の考えとその理由を明確にして書くことに課題が見られる。</p>
社会	<p>○ 地理的分野「日本の姿」の内容の平均正答率が、中2では県平均を、3.4P上回り、良好な状況が見られる。中でも、緯度と経度に関する情報を基に、日本が含まれる範囲を選択する設問において、県平均を5.1P上回っている。</p>
数学	<p>○ 「数と式」の領域の平均正答率が、中2では県平均を1.6P、中3では全国平均を0.6P上回り、良好な状況が見られる。中でも、中3の、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する設問において、全国平均を3.9P上回っている。</p> <p>● 「データの活用」の領域において、中2・中3ともに、データの傾向を読み取る際に用いる用語の意味を理解し、データの特徴や傾向を捉えて説明することに課題が見られる。</p>
理科	<p>○ 「生命」の領域の平均正答率が、中2では県平均を3.4P、中3では全国平均を1.7P上回り、良好な状況が見られる。中でも、植物や動物の分類基準を指摘する設問において、中2で県平均を6.3P、中3では全国平均を6.0P上回っている。</p>
英語	<p>○ 「書くこと」の領域の平均正答率が、中2では県平均を3.3P上回り、良好な状況が見られる。中でも、対話の流れに合った英文を書く設問において、中2で県平均を5.6P上回っている。</p>

## 2 児童生徒質問紙（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市児童生徒の肯定的な回答の割合を示しています。  
( ) 内の数値は、小6・中3においては全国平均との差、小4・小5・中2においては県平均との差を示しています。

### ○ 児童生徒は、主体的によりよい学級づくりに参画している。

「授業を集中して受けている」（とちぎっ子）

小4 91.0% (+1.0P)      小5 92.9% (+0.2P)      中2 91.9% (+0.7P)

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている」（全国学力）

小6 80.1% (+6.6P)      中3 82.3% (+5.5P)

### ○ 教員や家族に自分のよさを認められていると感じており、自己肯定感が高い。

「先生は、学習のことについてほめてくれる」（とちぎっ子）

小4 85.9% (+2.1P)      小5 88.9% (+1.9P)      中2 82.7% (+2.2P)

「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」（とちぎっ子）

小4 86.3% (+2.2P)      小5 88.1% (+2.7P)      中2 79.4% (+2.1P)

「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」（全国学力）

小6 93.2% (+6.1P)      中3 91.9% (+5.3P)

### ○ 地域や社会についての関心をもっている児童生徒の割合が高い。

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」（全国学力）

小6 59.4% (+8.1P)      中3 50.1% (+9.4P)

「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」（とちぎっ子）

小4 72.7% (+1.6P)      小5 74.9% (+1.6P)      中2 78.5% (+3.2P)

### ● 学校の授業以外における学習時間は、県の平均を下回る。

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

(全国学力・とちぎっ子)

※ 小4～小6は1時間以上、中2・中3は2時間以上学習する児童生徒の割合

※ 全学年とも ( ) の値は、県平均との差

小4 42.3% (-5.3P)      小5 53.5% (-3.2P)      中2 30.1% (-1.3P)

小6 66.0% (-1.8P)      中3 36.0% (-0.1P)

### ● 自分の考えを文章にまとめて書く学習に、苦手意識がある。

「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない」（とちぎっ子）

小4 34.2% (-3.8P)      小5 37.5% (-2.2P)      中2 33.3% (-4.3P)

### 3 学校質問紙（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市立学校の肯定的な回答の割合を示しています。  
( )内の数値は、「全国学力・学習状況調査」の質問については全国平均との差、  
「とちぎっ子学習状況調査」の質問については県平均との差を示しています。

#### ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進められている。

「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」

(全国学力)

小学校 86.9% (+3.5P)                      中学校 80.0% (+3.4P)

「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」(とちぎっ子)

小学校 92.8% (+5.9P)                      中学校 88.0% (+9.5P)

#### ○ 児童生徒が考えを文章にまとめる指導の充実が図られている。

「自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている」(とちぎっ子)

小学校 95.7% (+7.4P)                      中学校 100% (+13.3P)

※ 令和3年度と比較して、小学校で14.5% (12.1P)、中学校で16.0% (13.2P) 増加

#### ○ 小・中学校の連携した取組が定着し、全国と比べてよく行われている。

「近隣等の中（小）学校と、教育課程に関する共通の取組を行った」(全国学力)

小学校 75.3% (+22.6P)                      中学校 96.0% (+34.9P)

#### ○ 保護者や地域と連携・協働する取り組みが、よく行われている。

「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」(全国学力)

小学校 85.5% (+14.7P)                      中学校 84.0% (+28.2P)

#### ● 学力調査問題の有効な活用が求められる。

「学力調査後、調査対象学年の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している」(とちぎっ子)

小学校 89.9% (-3.6P)                      中学校 72.0% (-2.7P)

※ 令和3年度と比較して、小学校で同値、中学校で16% (10.8P) 増加

「学力調査後、調査対象学年の1学年下の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、習得状況を確認している」(とちぎっ子)

小学校 79.7% (-1.4P)                      中学校 69.6% (-9.6P)

※ 令和3年度と比較して、小学校で13% (7.9P)、中学校17.6% (0.5P) 増加

## 4 児童生徒質問紙（アンケート）と教科の正答率のクロス集計結果について

### － 学力との相関が高い質問についての考察 －

本市におけるアンケートの結果のうち、正答率が高い児童生徒の方が、正答率が低い児童生徒と比べて肯定的に回答している傾向が見られた項目について分析し、学力に影響すると考えられる児童生徒の取組をまとめました。

正答率が高い児童生徒は、次のことによく取り組んでいる傾向が見られる。

- ・ 疑問に思ったことを追究しようとする意欲を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。
- ・ 話し合う活動を通して考えを深めたり、自分の考えを工夫して伝えたりしている。
- ・ ノートに学習の目標やまとめを書いたり、学習したことを振り返ったりしている。
- ・ 自分で計画を立てて家庭学習に取り組み、休日の学習時間の確保もできている。
- ・ 地域や社会について関心をもち、課題の発見や解決に向けて考えたりしている。

## 5 全体のまとめ

### <まとめ>

#### 教科に関する調査結果について

各教科の領域や観点等別の状況において、平均正答率が全国及び県の平均を下回るなど、一部に課題も見られたが、ほとんどの学年及び教科で全国及び県の平均を上回っており、概ね良好な結果が見られた。

#### 質問紙調査（アンケート）について

家庭学習の時間や調査問題の活用において、肯定的な回答割合が県の平均を下回るなど、一部に課題も見られたが、新学習指導要領の具現化に向けた授業改善の取組、小・中学校や地域との連携に係る取組を中心に全国及び県の平均を上回っており、概ね良好な結果が見られた。

### <良好な結果の要因と考えられること>

- ・ 各学校において、平成 29 年 3 月に公示された小学校及び中学校の学習指導要領の趣旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進められている。
- ・ 地域学校園において、小・中学校が連携した取り組みが定着しており、教育課程に関する共通の取組や小中での合同研修の機会を確保するなど、小・中学校で系統性のある指導の実践ができている。
- ・ 児童生徒が集中して授業に取り組むことができているとともに、各学校において児童生徒のよさを認め励ます指導が浸透し、児童生徒は自分のよさに自信を持って学習や生活に臨むことができている。

### <今回の結果から見えてきた課題>

- ・ 漢字や語句、計算や作図の技能など、基本的な知識・技能の一部に定着が不十分なものが見られるため、つまずきに応じた補足的な指導を行う期間を設定したり、課題の出し方を工夫しながら家庭学習の習慣化に向けた取組を継続したりするなどして、着実な定着を図る必要がある。
- ・ 自分の考えを文章にまとめて書くことについて課題が見られるため、段階的に書く活動を取り入れるなど、まとまった量の文章を書く力が身に付くよう指導方法の工夫が必要である。
- ・ 算数・数学では、「関数（変化と関係）」と「データの活用」の領域、特に新学習指導要領における、新しい学習内容について課題が見られるため、指導要領及び学習内容の確認を進めるとともに、教科の系統性を踏まえた数学的活動による指導方法の工夫改善が必要である。

## 6 今後の取組

### 〈 市教委 〉

- 市の定着度調査と併せた一体的な分析により、本市の学力向上に係る取組の改善に向けてPDCAサイクルを回すとともに、各学校における分析や指導計画改善の助言を行う。また、各校において定着しつつある調査問題の活用を促進するため、学校訪問等において、調査問題の授業等での活用など具体的な指導、助言を行う。
- 児童生徒一人一人が基礎・基本を確実に身に付けることができるよう、基礎期からのきめ細かな学習指導を推進するとともに、A1型個別学習ドリルの活用などにより家庭学習の習慣化を推進する。また、単元や学期ごとに復習する機会の設定や学年末の「宮っ子まとめの学習月間」の取組を促進する。
- 自分の考えをまとめ、書く力を育成するため、系統的な指導により、自分の考えをまとめ書く力を育成する指導のポイントについて、センター研修や学校訪問の機会を捉えて、指導助言を行う。
- 新設された学習内容や学年間で移行された学習内容について、系統性を踏まえた指導計画及び授業改善を図れるよう指導助言を行う。また、問題発見・解決過程を重視した数学的活動の指導の工夫に向けて、指導助言を行う。
- 本市児童生徒のほとんどが教職員や家族に自分のよさを認められていると感じていることを本市学校教育の大きな成果と捉え、児童生徒の自信や自己肯定感を一層育むため、「宮っ子心の教育表彰」など、認め励ます教育を引き続き推進する。

学力調査  
の  
活 用

基礎基本の  
確 実 な  
定 着

考えをまとめ  
書く力の  
育 成

算数・数学  
数学的活動  
の 充 実

認 め  
励 ま す  
教育の推進

### 〈 学 校 〉

- 国、県、市の結果を分析して児童生徒の状況や学習指導上の成果と課題を明らかにし、校内で共有を図り、チームで課題解決を図る。また、調査問題を、引き続き積極的に授業で活用するとともに、補充問題やMEXCBT(文科省オンライン学習システム)を利用して学力の向上を図る。
- 児童生徒が意欲的に学習に取り組みながら、基礎・基本を身に付けることができるよう、きめ細かな指導や学習評価を行う。特に、基礎期における基礎・基本の指導について、各校の実態に応じて工夫・改善を図る。また、新たな学習ツールである1人1台端末を効果的に活用し、家庭学習の習慣化に向けた取組を工夫する。
- 児童生徒の興味・関心を生かした課題を設定するなど、進んで書く活動に取り組む機会を多く設定するとともに、書く技能について系統的に指導する。なお、国語科を中心に全教科等で、児童生徒が自分の考えを書いて表現する力を育成するよう取り組む。
- 新設された学習内容や学年間で移行された学習内容について、新たな学習内容と既習事項を関連付けながら指導するよう計画を見直す。また、解決の見通しをもたせたり、課題を設定させたりするなどの数学的活動に取り組みせ、数学的な表現を用いて問題を解決する力を育成する。
- 日々の学習や生活における児童生徒への積極的な声掛けや、機会を捉えた賞賛を通して、児童生徒のよさや努力を認め励ますとともに、児童生徒同士が互いのよさに気づき、賞賛したり励ましたりする活動を引き続き推進する。